

2023年度 事業計画

社会福祉法人 幸仁会

1. 2023年度 事業計画の概要

- 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービスは100%、通所系は80%を必達目標とする。
 - 訪問系サービスは職員1人あたり、1日5名の提供を目標とする。
 - 地域連携の強化とスムーズな入退所の仕組みを構築する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を即時把握できる仕組みを整備する。
 - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
 - 施設、法人、グループ単位での連携強化
 - 各単位において週単位での会議の実施。
 - 相互に連携、協力体制をもち、ノウハウなどの利点を最大限に生かす。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域一体となった行事を行う為、地域の方々の意見を聞いた上で、共に企画することを目標。
 - 感染症予防の為、地域ボランティアを施設へ招くことが難しい場合、職員等を中心に地域行事への参加も積極的に検討する。
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続していく。
- サービスの質
 - 利用者、家族、地域の方々の声を聴き、高品質なサービスの提供を行う意識や体制づくりを進めるために施設の職員一人一人がどうあるべきか、どのような施設にしたいかを主体的に考え、話し合い、実践できる環境を作る。
 - 個々の技術面のみならずチームとしてのサービス提供体制を確立する為あきらめず話し合う。
- 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 実践に即した体験型研修の実施
 - 外部研修への積極的参加

- 接遇マナーの向上
- 新入職員(特に介護未経験者)に対するOJT研修体系の確立
- 職種、経験や個人の特性に即した研修の実施
 - マニュアル類、BCPの整備、周知の徹底
 - 労働環境における問題等を職員皆で解決に向けて話し合い、信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備
- 新規事業、改修工事
 - 予定なし

2. 運営目標(稼働率、利用者数)

高齢者事業

- 特養(稼働率) *2022年度:2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
特養かおりの丘(入所)【60名】 (ショート)【10名】	99.8% 58.7%	100.0%(+0.2%) 80.0%(+21.3%)
ヴィラー宮(入所)【20名】	92.0%	98.0%(+6.0%)
ヴィラ泉 (入所)【110名】 (ショート)【10名】	95.7% 117.7%	97.0%(+1.3%) 100.0%(▲17.7%)
ケアホーム花畑(ユニット型入所)【72名】 (ユニット型ショート)【12名】 (従来型入所)【36名】	94.0% 75.0% 98.0%	100%(+6.0%) 96.0%(+21.0%) 100.0%(+2.0%)

- 通所介護(稼働率) *2022年度:2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
かおりの丘デイサービスセンター【35名】	79.3%	85.0%(+5.7%)
平成デイサービスセンター泉【20名】	77.0%	80.0%(+3.0%)

- 訪問看護(延べ人数) *2022年度:2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
訪問ステーションてととと洲本	11,215名	11,520名(+305名)

- 訪問介護(延べ人数) *2022年度:2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
かおりの丘ホームヘルプサービス	5,792名	5,800名(+8名)

- 居宅(ケアプラン数)

*2022年度:2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
かおりの丘居宅介護支援事業所	665名	670名(+5名)

障がい者事業

- 居宅介護・重度訪問介護(延べ人数)

*2022年度:2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
かおりの丘ホームヘルプサービス	1,549名	1,600名(+51名)

- 移動支援(延べ人数)

*2022年度:2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
かおりの丘ホームヘルプサービス	297名	300名(+3名)

その他事業

- 在宅介護支援センター

*2022年度:2023年3月の見込値を含む

事業所名	2022年度*	2023年度 目標
かおりの丘在宅介護支援センター	400名	600名(+200名)

2023年度 事業計画

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

かおりの丘(特養)【定員:入所-60名 ショート-10名】

かおりの丘デイサービスセンター(通所介護)【定員:35名】

かおりの丘ホームヘルプサービス

(訪問介護、障害福祉サービス:居宅介護・重度訪問介護・移動支援)

かおりの丘在宅介護支援センター

かおりの丘居宅介護支援事業所

高齢者事業

かおりの丘(特養)【定員:入所-60名 ショート-10名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービスは特養100%、ショート98%を必達目標とする。
 - 地域連携の強化とスムーズな入退所の仕組みを構築する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を即時把握できる仕組みを構築し、会議で共有する。
 - 週単位での会議を実施する。
 - 稼働や支出状況の改善策を随時検討し素早く実行する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域一体となった行事を行うため、地域の方々の意見を聞いた上で、共に企画する。
 - 感染症予防のため、地域ボランティアを施設へ招くことが難しい場合、職員等を中心に地域行事への参加も積極的に検討する。
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続する。
 - サービスの質
 - 昨年度から開始した接遇委員会の継続。
 - 「人」にとって安心できる場所を作る。
 - 個々の技術面のみならず、チームとしてのサービス提供体制を確立するため、職員間の話し合い、意思疎通を図る。
 - サービス提供に当たっては、感染症予防を十分に行う。2022年12月の新型コロナウイルス感染症の発生事例から学んだ事を活かす。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 職員本人が主体的に取り組む、職種、経験や個人の特性に即した研修の実施。
 - 実践に即した体験型研修の実施。
 - 外部研修への積極的参加。
 - 接遇マナーの向上。
 - 新入職員(特に介護未経験者)に対するOJT研修体系の確立。
 - マニュアル類、BCPの整備、周知の徹底。
 - 労働環境における問題等を職員皆で解決に向けて話し合い、信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備。

- 主な指標

*2022年度:2023年3月の見込値を含む

- 入所

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	99.8%	100%(+0.2%)
平均要介護度	4.0	4.0(±0)
単価(人・日)	11,399円	11,500円(+101円)

- ショート

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	58.7%	80%(+21.3%)
平均要介護度	3.1	3.2(+0.1)
単価(人・日)	11,066円	11,200円(+134円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 待機者、申込者の状況確認を細めに行ない、空床時の案内を迅速に行う。
- 出来る限り多くの他事業所と連携するため、パンフレット、チラシなどを活用し、事業所訪問し、ご相談を頂きやすい関係性の構築を図る。
- ホームページ等の活用で施設の情報を提供する。
- 入院者の週単位での状況確認を実施する。
- 入所状況に関する会議の定期開催を継続する。

- 平均要介護度

- 要介護度の高い利用者、入所が必要な順を適切に判断し、入所を進める。

- 加算について

- 栄養マネジメント強化加算の算定
- 褥瘡マネジメント加算の継続算定
- 排せつ支援加算の継続算定
- 安全対策体制加算の継続算定
- ADL維持等加算の継続算定
- LIFEを活用した新規加算の算定
- 介護職員等ベースアップ等支援加算の算定

- その他取り組み

- 入所者の健康管理や状態・ADLの維持に施設全体で取り組む。

かおりの丘デイサービスセンター(通所介護)【定員:35名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 85%を必達目標とする。
 - 地域の事業者との連携の強化のために、スムーズな新規受け入れの仕組みを構築する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を即時把握できる仕組みを構築し、会議で共有する。
 - 週単位での会議を実施する。
 - 稼働や支出状況の改善策を随時検討し素早く実行する。
 - サービスの質
 - 昨年度から開始した接遇委員会の継続。
 - 「人」にとって安心できる場所を作る、利用者最優先で高品質なサービスの提供を行う意識や体制づくりを進める。
 - 個々の技術面のみならず、チームとしてのサービス提供体制を確立するため、職員間の話し合い、意思疎通を図る。
 - サービス提供に当たっては、感染症予防を十分に行う。2023年2月の新型コロナ感染症の発生事例から学んだ事を活かす。
 - 人材育成、職場環境の整備。
 - 研修の実施。
 - 本人が主体的に取り組める、職種、経験や個人の特性に即した研修の実施。
 - 実践に即した体験型研修の実施。
 - 外部研修への積極的参加。
 - 接遇マナーの向上。
 - 新入職員(特に介護未経験者)に対するOJT研修体系の確立。
 - マニュアル類、BCPの整備、周知の徹底。
 - 労働環境における問題等を職員皆で解決に向けて話し合い、信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備。

- 主な指標

*2022年度:2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	79.3%	85.0%(+5.7%)
平均要介護度	2.2	2.3(+0.1)
単価(人・日)	9,116円	9,300円(+184円)

- 実現するための取り組み
 - 稼働率
 - 短時間デイの送迎実施など、個々の利用者に合わせた個別性のある介護サービスを提供する。
 - 以前より取り組んでいる「したいことができるデイ！」を継続し、利用者の意欲を引き出せるよう、サービス内容を見直し、新規の利用にも繋げる。
 - 利用中の利用者についてはADL・状態維持に努め、継続利用に繋げる。
 - 平均要介護度
 - 介護支援専門員と家族様と連携し、介護度が高い方も積極的に受け入れる。
 - 加算について
 - 通所介護入浴介助加算の継続算定
 - 個別機能訓練加算 I・II の継続算定
 - 通所介護処遇改善加算 I の継続算定
 - 通所介護特定処遇改善加算 I の継続算定
 - LIFEを活用した加算の継続算定
 - 介護職員等ベースアップ等支援加算の算定
 - その他取り組み
 - ADL維持等加算算定に向けてのBI値測定の実施。

かおりの丘ホームヘルプサービス

(訪問介護、障害福祉サービス:居宅介護・重度訪問介護・移動支援)

- 事業計画の概要
 - 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善。
 - 訪問介護員1人1日5件を必達目標とする。
 - 地域の事業者との連携を強化し、スムーズな新規受け入れの仕組みを構築する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を即時把握できる仕組みを構築し、会議で共有する。
 - 週単位での会議を実施する。
 - 稼働や支出状況の改善策を随時検討し素早く実行する。
 - サービスの質
 - 昨年度から開始した接遇委員会の継続。
 - 「人」にとって安心できる場所を作り、利用者最優先で高品質なサービスの提供を行う意識や体制づくりを進める。
 - 個々の技術面のみならず、チームとしてのサービス提供体制を確立するため、職員間の話し合い、意思疎通を図る。
 - サービス提供に当たっては、感染症予防を十分に行う。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 本人が主体的に取り組める、職種、経験や個人の特性に即した研修の実施。
 - 実践に即した体験型研修の実施。
 - 外部研修への積極的参加。
 - 接遇マナーの向上。
 - 新入職員(特に介護未経験者)に対するOJT研修体系の確立
 - マニュアル類、BCPの整備、周知の徹底。
 - 労働環境における問題等を職員皆で解決に向けて話し合い、信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備。

- 主な指標

(介護保険)

*2022年度:2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
延べ人数	5,792名	5,800名(+8名)
平均要介護度	2.3	2.4(+0.1)
単価(人・日)	3,883円	3,900円(+17円)

(障害福祉サービス)

居宅

*2022年度:2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
延べ人数	1,549名	1,600名(+51名)
単価(人・日)	3,537円	3,600円(+63円)

(障害福祉サービス)

移動支援

2022年2月～

	2022年度*	2023年度 目標
延べ人数	297名	300名(+3名)
単価(人・日)	2,300円	2,300円

- 実現するための取り組み

- 利用者へのサービス展開

- 効率よく訪問を進められるシフト表作り。
- 障害分野に積極的に参加する。
- 地域の介護支援専門員との連携を密にし、空き状況を伝える。

- 平均要介護度

- 介護支援専門員と連携し、重度要介護者も積極的に受け入れる。

- 加算について

- 特定事業所加算Ⅱの算定(介護保険)
- 特定事業所加算Ⅱの算定(障害保険)
- 訪問介護処遇改善加算Ⅰの継続
- 訪問介護特定処遇改善加算Ⅰの継続
- 介護職員等ベースアップ等支援加算の継続

かおりの丘在宅介護支援センター

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 地域福祉推進のために行政から委託された事業。
 - 地域支援事業として介護教室や研修会および講義等の開催。
 - 関係者会議・地域ケア会議の管理運営等
 - サービスの質
 - 地域福祉推進のために行政から委託された事業、社会資源の開発、地域高齢者の実態把握。
 - 人材育成
 - 職場環境の整備。
 - その他
 - 訪問時には新型コロナウイルス感染症対策の徹底。
 - 標準予防策の徹底。(手洗い、消毒、マスク、フェースシールド着用等)
- 主な指標
 - 収益:行政からの委託金額 4,508,000円
- 実現するための取り組み
 - 高齢者訪問
 - 昨年度は新型コロナウイルスの影響により、世帯訪問が激減したため、訪問件数600件を目標(月50件訪問)を目指す。
 - 単身世帯高齢者 高齢者世帯の実態把握・見守り活動を強化する。(広報、営業活動も兼ねる)
 - 地域支援事業
認知症サポーター養成講座・福祉教室等での活動や関係者会議に参加。
 - 介護支援専門員や関係職種とのネットワーク作りのため、情報提供と共有
地域活動者との仲介等

かおりの丘居宅介護支援事業所

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、向上
 - ケアマネの担当件数は規定人数39名を目指す。
 - サービスの質
 - 現在ケアマネが担当している利用者の情報共有。
 - 申し送りについて誰でも状況が理解でき、連携や共有が滞らないように「聞く」「話す」の徹底。
 - 人材育成、職場環境の整備

- 「一人で抱え込まない」環境作り。

- 主な指標

*2022年度:2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
ケアプラン数	665名	670名(+5名)
平均要介護度	2,2	2.3(+0.1)
単価(人・月)	9,734円	10,000円(+266円)

- 実現するための取り組み

- 介護保険における要介護・要支援者の居宅サービス計画策定。
- 利用するサービスの種類・内容等を定めた居宅サービス計画の作成、居宅サービス事業者との連絡調整。
- 介護保険施設の紹介等のケアマネジメント委託業務。(介護保険認定調査 介護予防サービス計画作成等)
- 新型コロナウイルス感染症に関して、重症化リスクの高い高齢者へのサービス提供を考慮し、5類以降後も必要な感染症対策を検討し継続。

2023年 3月31日

2023年度 事業計画

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラー宮(地域密着型介護老人福祉施設)【定員:入所-20名 ショート空床利用】

高齢者事業

ヴィラー宮(地域密着型介護老人福祉施設)【定員:入所-20名 ショート空床利用】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 稼働率は99%(1日平均19.8人)を必達目標とする。
 - 地域の事業者との連携を強化し、スムーズな新規受け入れの仕組みを構築する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 稼働率、推移表を更新・把握し、現状の状況に注意する。
 - 週単位での会議を実施し、稼働や支出状況の改善を行い、問題があれば都度検討・改善できるように取り組む。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域一体となった行事を行うため、地域の方々の意見を聞いた上で、共に企画する。
 - 感染症予防の為、地域ボランティアを施設へ招くことが難しい場合、職員等を中心に地域行事への参加も積極的に検討する。
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続する。
 - サービスの質
 - 昨年度から開始した接遇委員会の継続。
 - 「人」にとって安心できる場所を作る。
 - 個々の技術面のみならず、チームとしてのサービス提供体制を確立するため、職員間の話し合い、意思疎通を図る。
 - サービス提供に当たっては、感染症予防を十分に行う。併設施設における新型コロナウイルス感染症の発生事例から学んだ事を活かす。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 職員本人が主体的に取り組む、職種、経験や個人の特性に即した研修の実施
 - 実践に即した体験型研修の実施
 - 外部研修への積極的参加
 - 接遇マナーの向上
 - マニュアル類、BCPの整備、周知の徹底。
 - 労働環境における問題等を職員皆で解決に向けて話し合い、信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備。

- 主な指標

*2022年度:2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	92.0%	98.0%(+6%)
平均要介護度	3.3	3.7(+0.4)
単価(人・日)	13,202円	13,400円(+198円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 待機者、申込者の状況確認を行ない、入院や退所の際に迅速に対応できる体制を整える。
- 入所状況に関する会議の定期開催を継続する。
- 同敷地内の特養かおりの丘と連携して営業を実施し、地域の事業者から新規利用者の申込みの案内をする。
- ホームページ等の活用で施設の情報を提供する。

- 平均要介護度

- 入所コーディネートマニュアル(入所が必要な順)に沿い、適切に入所を進める。
- 要介護度や認知症が進行した方も積極的に受け入れる。

- 加算について

- 栄養マネジメント強化加算の継続算定
- 褥瘡マネジメント加算の継続算定
- 排せつ支援加算の継続算定
- 安全対策体制加算の新規算定
- LIFEを活用した加算の算定
- 日常生活継続支援加算の算定
- 介護職員等ベースアップ等支援加算の算定

- その他取り組み

- 入所者の健康管理や状態・ADLの維持に施設全体で取り組む。

2023年 3月31日

2023年度 事業計画

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ泉(特養)【定員:入所-110名 ショート-10名】

平成デイサービスセンター泉(通所介護)【定員:20名】

高齢者事業

ヴィラ泉(特養)【定員:入所-110名 ショート-10名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所稼働率は97%、ショートは100%を必達目標とする。
 - 地域連携の強化とスムーズな入退所の仕組みを構築する。
 - ショートステイのサービスを充実させてリピーターを増やす。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を施設利用日報の稼働率推移や支出状況で確認し、改善策を検討する。
 - 毎月の加算算定の状況を把握し、取得可能な加算は取得する。
 - 新規利用者の獲得に向けた対策を検討する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施する。
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続する。
 - サービスの質
 - 利用者最優先で、高品質なサービスの提供を行う意識や体制づくりを進める。
 - 役職者を適切に配置しサービス体制を強化する。
 - 個々の技術面のみならずチームとしてのサービス提供体制を確立する。
 - 感染対策を徹底する。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 実践に即した体験型研修の実施
 - 外部研修への積極的参加
 - 接遇マナーの向上
 - 新入職員(特に介護未経験者)に対するOJT研修体系の確立
 - 職種、経験や個人の特性に即した研修の実施
 - マニュアル類の整備、周知の徹底。
 - 業務量の適切な管理と信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備。
- 主な指標
 - 入所

*2022年度:2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	95.7%	97.0%(+1.3%)
平均要介護度	3.8	3.8(±0)
単価(人・日)	14,900円	15,000円(+100円)

○ ショート

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	117.7%	100.0%(▲17.7%)
平均要介護度	2.8	2.8(±0)
単価(人・日)	14,860円	14,960円(+100円)

● 実現するための取り組み

○ 稼働率

- 待機者、入院者の状況を把握し、空床のない計画を作成する。
- 入所・短期入所のスタッフが共通意識を持ち対応を行う。
- 魅力的な施設をアピールする為、毎月のイベントを企画しホームページ等で情報を提供し、待機者の確保をする。
- 医療行為対応者の受け入れを行う。

○ 加算について

- 現在取得中の加算を継続して取得する。

○ その他取り組み

- 自宅でのお風呂回数に応じた柔軟な対応
- リハビリのできるショートステイ、楽しいもてなしのあるショートステイを目指す。

平成デイサービスセンター泉(通所介護)【定員:20名】

● 事業計画の概要

○ 経営

- 稼働率の維持、改善
 - 稼働率は80%を必達目標とする。
 - 居宅介護事業所と連携を強化し、空き枠がある事を周知する。
- 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を即時把握できる仕組みを整備する。
 - 稼働状況を基に改善策を検討し実行する。
 - 毎月の加算算定の状況を把握し、取得可能な加算は取得する。
- 地域貢献活動の充実

- 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施する。
- 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続する。
- サービスの質
 - 1日利用できる、お風呂の入れるリハビリデイサービスをアピールして利用者のニーズにこたえていく。
- 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 接遇マナーの向上
 - 新入職員(特に介護未経験者)に対するOJT研修体系の確立
 - 職種、経験や個人の特性に即した研修の実施

● 主な指標

*2022年度:2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	77.0%	80.0%(+3%)
平均要介護度	1.9	1.9(±0)
単価(人・日)	9,600円	9,650円(+50円)

● 実現するための取り組み

- 稼働率
 - 魅力的な施設をアピールする為、毎月のイベントを企画し、ホームページ等で情報を提供し、待機者の確保をする。
 - 利用者の満足度を日ごろからヒアリングし、口コミでの利用者獲得を図る。
 - 介護職員の職場定着を図り、サービスの安定に繋げる。
 - ヘアカットサービスの日やおやつバイキングの日など、スポット利用を希望出来るように対応する。
- 加算について
 - 現在取得中の加算を継続して取得する。
- その他取り組み
 - 感染症の早期把握。デイサービス内での感染が広がらないようしっかりとご利用者・ご家族と連携して感染拡大につながらないように対応していく。

2023年 3月31日

2023年度 事業計画

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム花畑(特養・ユニット型)【定員:入所-72名 ショート-12名】

ケアホーム花畑(特養・従来型)【定員:入所-36名】

高齢者事業

ケアホーム花畑(特養・ユニット型)【定員:入所-72名 ショート-12名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービスは100%を必達目標とする。
 - 地域連携の強化とスムーズな入退所の仕組みを構築する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を即時把握できる仕組みを整備する。
 - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施する。
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続する。
 - サービスの質
 - 利用者最優先で、高品質なサービスの提供を行う意識や体制づくりを進める。
 - 個々の技術面のみならずチームとしてのサービス提供体制を確立する。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 実践に即した体験型研修の実施
 - 外部研修への積極的参加
 - 接遇マナーの向上
 - 新入職員(特に介護未経験者)に対するOJT研修体系の確立
 - 職種、経験や個人の特性に即した研修の実施
 - マニュアル類の整備、周知の徹底。
 - 業務量の適切な管理と信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備。

- 主な指標

*2022年度:2023年3月の見込値を含む

- 入所

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	94.0%	100%(+6.0%)
平均要介護度	3.8	4.0(+0.2)
単価(人・日)	15,100円	15,500円(+400円)

- ショート

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	75.0%	96.0%(+21%)
平均要介護度	3.8	4.0(+0.2)
単価(人・日)	15,900円	16,400円(+500円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 入所待機者は常に5名とし、空床時は速やかに入所案内を行なう。
- 入院者の状況は入院先の病院と週1回は連絡をとり、退院の調整を図る。
- 認知症・医療行為のある方を積極的に受け入れる事で他施設との差別化を図る。
- 退所後も家族の相談場所として信頼される対応を行う。
- 地域の活動や行事に参加し連携を図る。

- 平均要介護度

- 適正な介護度であるか見直しを行う。変更が必要な場合は申請検討する。

- 加算について

- 日常生活継続維持加算の算定維持。
- 介護職員等ベースアップ等支援加算の算定。

その他取り組み

- 職員の質の向上に努める。
- 研修への参加。(特定看護師研修・喀痰吸引研修・ユニットリーダー研修)
- コロナ禍においても楽しめるレクの工夫。
- 旅行が味わえる感覚で利用できる空間を提供する。
- 入浴剤の選択・季節感が味わえるおやつを提供

ケアホーム花畑(特養・従来型)【定員:入所-36名】

- 事業計画の概要

- 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービスは100%を必達目標とする。
 - 地域連携の強化とスムーズな入退所の仕組みを構築する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を即時把握できる仕組みを整備する。
 - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施する。
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続する。
- サービスの質
 - 利用者最優先で、高品質なサービスの提供を行う意識や体制づくりを進める。
 - 個々の技術面のみならずチームとしてのサービス提供体制を確立する。
- 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 実践に即した体験型研修の実施
 - 外部研修への積極的参加
 - 接遇マナーの向上
 - 新入職員(特に介護未経験者)に対するOJT研修体系の確立
 - 職種、経験や個人の特性に即した研修の実施
 - マニュアル類の整備、周知の徹底。
 - 業務量の適切な管理と信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備。

- 主な指標

*2022年度:2023年3月の見込値を含む

- 入所

	2022年度*	2023年度 目標
稼働率	98%	100%(+0.2%)
平均要介護度	4.0	4.1(+0.1)
単価(人・日)	13,100円	13,200円(+100円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 従来型の入所待機時間が長いため、ユニット型への入所変更の案内を行う。
- 老健・病院への営業を行う。

- 認知症・医療行為のある方を積極的に受け入れる事で、他の施設との差別化を図る。
- 平均要介護度
 - 適正な介護度であるか見直しを行う。変更が必要な場合は申請検討する。
- 加算について
 - 日常生活継続支援加算の算定。
 - 介護職員等ベースアップ等支援加算の算定。
- その他取り組み
 - 職員の質の向上に努める。
 - 研修参加。(特定行為看護師研修、喀痰吸引研修、ユニットリーダー研修)
 - 感染対策を講じながらもレクリエーションの充実を図る。
 - 新型コロナウイルス感染症に関して、重症化リスクの高い高齢者へのサービス提供を考慮し、5類以降後も必要な感染症対策を検討し継続。

2023年 3月31日

2023年度 事業計画 社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてとと洲本(訪問看護)

高齢者事業

訪問ステーションてととと洲本(訪問看護)

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働状況の維持、改善
 - 1人あたり1カ月の訪問時間を4,200分を目標とする。
 - 看護師の訪問件数は1人あたり1日平均5～5.5件(4～4.5時間)を目標とする。
 - リハビリの訪問件数1人あたり1日平均5.5～6件(40分/件)を継続する。
 - 看護師、リハビリともに月の新規利用者獲得数を純増2～3名を目標とする。
 - 看護師訪問のうち60分訪問の割合を2%(2件/週)増加を目標とする。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を把握し損益分岐点の算出により目標件数を定め、収益の安定化を目指す。
 - 把握した状況を会議で共有し、毎月のフィードバックを実施する。
 - 稼働・支出状況の改善策を随時検討し、取り組みを実行する。
 - 後方支援病院との連携強化し、長時間ケアや医療保険対象の重度介護が必要な利用者を把握し、早期退院から受け入れできる体制を構築し、単価増加につなげる。
 - リハビリ単収増のため、人員を増加する。
 - サービスの質
 - 利用者毎の特性に合わせた質の高いサービス提供を行う意識付け、体制強化を進めるため、どのような事業所でありたいか各職員が主体的に考え、検討し実践できる環境を作る。
 - 多職種と協働して質の高いケアを提供するため、定期的に職種ごとや多職種合同で話し合い、利用者に最適なサービスを学び考える場を作る。
 - 重度疾患、難病等利用者に対して、経管栄養、褥瘡処置、人工呼吸器管理等の在宅で必要とされる看護提供を安全に実施できるように努める。
 - 個人の知識や技術面の向上、接遇マナーを常に見直し、個々の質の底上げを行い、チームとしての良質なサービス提供体制を確立するため、意思疎通を図る。
 - サービス提供にあたり、感染症予防を十分に行う。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修やケースカンファレンスを実施
 - 職員本人が主体的に取り組めるよう、職種、個人の経験や特性に合わ

せた研修の実施。

- 利用者の生活や地域を含めた視点に立った情報の理解や実践。
- 接遇マナーの向上。
- 担当業務の役割を明確にし、個人のスキルアップや責任感をもった業務遂行を行うための環境を整備。
- 労働環境における問題等を職員全体で改善に向けて話し合い、風通しの良い環境を整備。
- マニュアル類の整備、周知の徹底。
- 改修工事
 - 事業所4階の天井の修繕予定
 - 外壁立て看板の変更予定

● 主な指標

*2022年度:2023年3月の見込値を含む

	2022年度*	2023年度 目標
延べ人数	11,215名	11,520名(+305名)
平均要介護度	1.9	1.9(±0)
単価(人・日)	4,041円	4,150円(+119円)

● 実現するための取り組み

- 利用者の確保
 - 利用者を受け入れやすくするため、適宜移動時間を短縮する予定調整を行い稼働率改善を行う。
 - 看護・リハビリサービスの必要性を見出し、積極的に提案・相談を行う。
 - 居宅事業所と密に連携を行い、報告書やパンフレット、空き枠状況案内を活用し事業所訪問を行い、ご相談頂きやすい関係性の構築を継続する。
 - 後方支援病院との連携強化し、病院職員とともに退院・退所予定者の在宅フォローや、その後の再入院に繋がる流れを構築するため会議や退院前在宅訪問への参加を継続する。
 - 地域包括や兵庫県立淡路医療センター、地域の診療所、居宅事業所等と連携を図り、迅速な相談対応を行い、相談・紹介し易い関係性の構築を図る。
 - 定期巡回サービスの委託事業協力の新規案件拡大に努める。
 - みなし訪問サービスの無い病院からも訪問サービスの利用につながりやすい連携や意識付けを強化につながる体制(訪問業務の体験研修等)の構築を図る。
- 平均要介護度
 - 要支援対象については、目標を明確に、できるだけ短期間で集中したサービス提供により卒業に繋げ、必要な時に再開できる体制を整える。

- 単価の高い訪問割合の増加ができるよう看護師の1時間訪問件数の対応がすすめるようにサービス内容の検討・改善を図る。
 - 後方支援病院と退院予定者の早期からのフォローや再入院の支援ができる体制を構築し、重症度の高い方も積極的に受け入れ、かかりつけ医や看護職を中心に地域で一体となってサービス提供ができる体制を整える。
- 加算について
- 訪問看護初回加算
 - 緊急時訪問看護加算
 - 訪問看護特別管理加算Ⅰ、訪問看護特別管理加算Ⅱ
 - 退院時共同指導加算
 - サービス提供体制加算Ⅱ
 - 24時間対応体制加算(医療)
 - 特別管理加算(医療)、特別管理加算・重症度高(医療)
 - 難病複数回訪問加算(医療)
 - 専門管理加算(医療)
- 以上の算定可能な加算の算定数を増やし、単価の底上げに繋げる。
- その他取り組み
- 医療保険利用者の増加
 - 特定疾患、難病、末期などの医療保険対象者の受け入れを増やす。
 - 地域の在宅医療・在宅介護の橋渡しや支えを役目として、日常生活に安心を提供できるサービス提供を行い、在宅生活の最後まで支えられる存在となるため事業所全体で取り組む。